

○ 裁判所の所長さんとの対談	1	○ 企画展「ノラともならず 創作人形とよむ杉田久女の俳句」	6
○ 第三回特別企画展 「森鷗外展 をりをりの微笑」	2	○ 自分史ギャラリー「門司発沖繩行き D51 列車発車」	
○ 平野啓一郎さん講演会「鷗外の「知」」		○ 交流ステージ&ワークステーション	7
○ 文学講座		「榎山莊子ども俳句大会作品展」	
○ 文学ツアー「森鷗外のふるさと・津和野を訪ねる」		「北九州市立文学館 開館一周年祝賀 北九州川柳大会作品展」	
○ 古川薫さん講演会	4	子ども文化ふれあいフェスタ 「落語っこ 落語であそぼう」	
○ 乃木希典「斜陽に立つ」をめぐって		○ 第18回北九州市自分史文学賞決まる	8
○ 高橋睦郎さん講演会	5	○ 第1回北九州文学協会文学賞決まる	
「五足の靴」と与謝野寛		○ 予告	
○ 企画展「みんなおいでよガエムの国へ —現代少年少女詩・童謡詩展—」	6	○ 文学館文庫の出版	
○ 企画展「みんなおいでよガエムの国へ —現代少年少女詩・童謡詩展—」		○ 資料寄贈者・受贈雑誌一覧	
○ 青木裕子さん朗読会「クリスマス・キャロル」			



裁判所の所長さんとの対談

館長 佐木 隆三

文学館の館長として、いろいろな方と対談をしてきた。対談といっても、「自分史を語ろう」のように、インタビュー形式のものもある。芥川賞作家の高樹のぶ子さんや、直木賞作家の古川薫さんからは、「一人でしゃべるのは苦手なので、適当に話を引き出してほしい」と言われて、対談形式にした。同業者の相手をつとめるのだから、事前に打ち合わせすることもなく、ぶっつけ本番で役目を果たしている。

ちよっと戸惑ったのは、福岡地方裁判所の箕田孝行前所長との対談だった。わたしは昨年八月、福岡地方裁判所委員会委員に任命され、箕田さんとは面識がある。ざっくばらんな人柄だが、なにしろ裁判所の所長さんだから、こちらが身構えてしまう。その対談は、『福岡地裁広報』一月号に、新春特別企画として掲載されることと、十二月十三日に訪ねてこられた。

わたしは知らなかったが、だ

頭に、「北九州市は、明治維新後の日本を牽引してきた重工業の拠点として、重要な役割を担いました。同時に森鷗外、林芙美子、松本清張などの文学者たちが暮らし、多くの優れた文学が生まれた街です」と発言された。

それです。嬉しくなって、わたしの緊張は

解け、門司港の山小屋で暮らし、畑仕事をしてのことなども話した。すると思いがけず、「自然の中で自分も生きています、そして生かされているという感じなんです。アメリカの哲学者・作家で『森の生活』ウオールデン』を書いたH.D. ソローを思い出しました」と

言われた。これは困ったぞと思ったのは、わたしは作品も

作者名も知らない。やはり裁判所の所長さんともなれば、相当な教養人であることに思いを致した。

それから犯罪や裁判の話

題になり、箕田さんはずっと民事が専門で、刑事事件は縁がないとのこと。こっちは刑事が専門の「裁判傍聴業」

だから、気をとりにおして取材経験について語り、来るべき裁判員制度に話題が発展した。

対談の楽しみは、相手からいろんなことを教えられるところにある。そういう次第であるから、これからも懲りずに対談をするつもりだ。



▲ 第四回特別企画展
「与謝野寛・晶子展」

今年、歌人・与謝野晶子は生誕一三〇周年を迎えます。これを記念し、日本の近代詩歌史上に不朽の足跡を残し、女性の地位向上にも重要な役割を果たした晶子の業績を夫・寛（鉄幹）とともに展望します。また、若松をはじめ、九州各地での夫妻の足跡を紹介いたします。

*日時 4月19日(土) 6月8日(日) ※月曜日休館 (ただし5月5日は開館、7日は休館)

*観覧料 一般四〇〇円、中学生二〇〇円、小学生一〇〇円